

2014 年度 国際学術交流促進委員会報告

委員長 黒木保博（同志社大学）

学会秋季大会前日の 11 月 28 日、早稲田大学早稲田キャンパスにおいて韓国社会福祉学会代表団との公式協議が開かれました。韓国からは金永鐘学（キム・ヨンジョン）会長、金新烈（キム・シンヨル）アジア学術交流委員長、ユン・ヒョンスク次期会長（シンポジストも兼ねる）、李周桓（イ・ジュファン）事務局員が出席しました。日本側からは岩田会長、岩崎総務担当理事（事務局長）、松端理事・委員、そして黒木が出席しました。また金圓景委員、蘇珍伊委員が韓国担当・通訳として出席しました。議題は、まず 1，覚書改正でした。従来は、毎年日本からは韓国の春季学術大会、韓国からは日本の秋季大会に代表者を招待して国際シンポジウムを開催していました。しかし、今回の覚書では、隔年に招待する改正となりました。2015 年 10 月は韓国での秋季学術大会に日本からの代表団が招聘され、2016 年は日本の秋季大会（於：佛教大学）に韓国代表団が招聘され、国際シンポジウムが開催されることとなります。このことから今年の久留米大学での秋季大会では国際シンポジウムは開催しません。なお個人研究発表は従来通りです。日本からの推薦と発表は韓国の春季学術大会です。また 2，2015&2016 年学術交流主題テーマについての協議も行われました。協議の結果、コミュニティワークをテーマすることが決定されました。これらの協議を終えて両会長が覚書に調印し、今後 2 年間の学術交流がスタートしました。

日韓協議終了後に、中国社会福祉研究専門委員会 彭華民常務副理事長、朱安新南京大学教授を交えての日本・韓国・中国の協議が行われ、3 カ国社会福祉学術交流ネットワークの促進に向けて話し合いました。残念ながら 30 分しか時間が取れず、結論は得られませんでした。しかし、それぞれの国で国際シンポジウム開催をする時には招聘し、引き続き交流していくことの確認がなされました。